

もの言う牧師のエッセー 第361話

「金農旋風」

第100回となった夏の甲子園大会は、史上初となる2度目の春夏制覇を果たした大阪桐蔭の優勝で幕を閉じたが、今大会の主役は紛れもなく、秋田勢で103年ぶりに頂上決戦へと上り詰めた金足農業高校だったのは間違いない。公立の農業高校、ベンチ入り選手が全員地元という驚きに加え、相次ぐミラクルと逆転劇、僅差での勝利、エース・吉田輝星投手の「シャキーン」や、全員がのけぞって全力で歌う校歌斉唱など話題満載で、日本中を金足旋風が吹き抜けた。

同校グラウンド脇に建つ石碑には「寝ていて人を起こすことなかれ。」とある。夜明け前に板をたたいて村人たちを起こし、共に仕事に励み、貧農の救済を实践した、秋田生まれの明治時代の農業指導者、石川理紀之助の言葉は、人を動かすには寝ていてはいけない、まず自らが率先して行動することを指す。長靴で雪の中を走って足腰を鍛える伝統と並んで、金農の選手たちはしっかりとその教えを継承したと言える。

雪国の厳しさと農業の喜びが謳い上げられている同校の校歌 「霜しろく 土こそ凍れ
見よ草の芽に 日のめぐみ 農はこれ たぐひなき愛」を聞いて、聖書の

**「雨や雪が天から降ってもとに戻らず、必ず地を潤し、それに物を生えさせ、芽を出させ、
種蒔く者には種を与え、食べる者にはパンを与える。そのように、わたしの口から出るわた
しのことばも、むなしく、わたしのところに帰っては来ない。必ず、わたしの望む事を成し
遂げ、わたしの言い送った事を成功させる。まことに、あなたは喜びをもって出て行き、安
らかに導かれて行く。山と丘は、あなたがたの前で喜びの歌声をあげ、野の木々もみな、
手を打ち鳴らす。」**

イザヤ書55章10-12節、

を思い出した。苦しさも悲しみも、愛と喜びを持って元気に乗り越え、神の恵みに与り豊かに
収穫し、大声で神に感謝を捧げよう。

2018-10-26

